



## (別紙1) 藤沢市民病院

### 1 現状と課題

#### ■当院の現状

当院は、救命救急センターをはじめとし、災害拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、小児救急医療拠点病院、周産期救急医療中核病院など湘南東部構想区域において数多くの医療機能を担い、また高度急性期・急性期医療を提供してきた。それらの経緯を踏まえ、地域医療機関との連携を図りながら、引き続き高度急性期・急性期医療の提供を継続する。

なお、平成37年における必要病床数と現状の病床数との乖離に関しては、今後の神奈川県との動向等を注視していく。

### 2 今後の方針

#### ■地域において今後担うべき役割 及び 持つべき病床機能

湘南東部構想区域における医療需給将来推計では、入院医療需要については平成52年までは増加傾向にある。また疾患別では、がんや脳卒中、急性心筋梗塞といった急性期疾患をはじめ、救急搬送についても増加が予測されている。

この将来推計を踏まえ、当院は救命救急センターや地域がん診療連携拠点病院などの医療機能を最大限に活かし、高度急性期・急性期医療を担う地域の基幹病院としての役割を今後も継続して進めていく。また、地域医療機関との機能分担及び連携をさらに進め、状態の安定した患者については退院支援を図り、切れ目のない医療提供体制を築いていく。

### 3 具体的な計画

湘南東部構想区域における医療受給将来推計では、がん、脳卒中、急性心筋梗塞など急性期疾患が増加する予測がされている。

当院としては、地域包括ケアシステムの中の高度急性期・急性期医療を担う1つのパーツとなるため、平均在院日数の短縮や紹介・逆紹介等地域医療機関との機能分化・連携の強化に取り組みを進めている。

#### ■数値目標

指 標	単位	H28 (決算見込)	H29	H30	H31	H32
救命救急センター患者数	人	31,910	32,708	33,133	34,029	34,611
救急車搬送患者数 (総数)	人	8,240	8,446	8,556	8,787	8,937
成人救急車搬送患者数	人	6,530	6,672	6,759	6,942	7,061
小児救急搬送患者数	人	1,710	1,774	1,797	1,845	1,877
産科救急搬送患者数 (再掲)	人	40	40	45	45	50
救急車応需率	%	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
救命救急センター経由入院患者数	人	5,910	6,058	6,137	6,303	6,410
救急車搬送入院患者数	人	2,965	3,039	3,079	3,162	3,216
紹介患者数	人	20,800	21,320	21,597	22,181	22,561
紹介率	%	80.0	80.5	81.0	81.5	82.0
紹介入院患者数	人	11,820	12,116	12,273	12,605	12,821
逆紹介患者数	人	12,708	13,004	13,173	13,529	13,760
逆紹介率	%	61.6	62.0	62.5	63.0	63.5
看護必要度割合	%	27.8	28.0	28.0	28.0	28.0
在宅復帰率	%	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0
がん入院患者数	人	2,210	2,265	2,295	2,357	2,397
がん相談件数	人	2,670	2,700	2,710	2,720	2,730
手術件数	人	5,740	5,884	5,960	6,121	6,226
全麻+全硬麻 手術割合	%	59.7	61.0	61.0	62.0	62.0
手術室稼働率 (緊急除く・定時外含む)	%	67.7	68.0	68.5	69.0	70.0
分娩件数 (児数)	人	520	525	530	535	540
患者1人1日当たりリハビリ単位数	単位	1.9	2.2	2.5	2.8	3.0

## (別紙2) 茅ヶ崎市立病院

### 1 現状と課題

#### ■自施設の現状

- ・ 一般病棟入院基本料（7：1）の算定、集中治療室（ICU）の稼動などの機能アップを行うことで、診療報酬の増加に向けた取組みを進めている。
- ・ 地域医療の中核を担うべく、急性期医療を提供する病院としての位置を確立し運営していくため、救急の受け入れの強化が必要と考え、救急搬送の受け入れ体制の充実を進めている。
- ・ がんの治療機能の充実を進めるべく、化学療法への対応や放射線治療室の設置などに取り組み、「がん診療連携指定病院」の指定を受けるための準備を進めている。
- ・ 継続的に質の高い医療を提供するために、人材の確保が重要となる。特に、看護職員の確保に関しては、適時採用、採用試験の実施回数増、説明会の開催など、年間を通じて活動している。また、院内保育室の充実などを進め、子育て中であっても働きやすい環境の整備を進めている。

#### ■自施設の課題

- ・ 診療報酬の増加に向けた取組みを進め、病床利用率の上昇など稼動額増額に向けた取組みを行っているが、それに伴う医師・看護師の増員、さらには公立病院であるがゆえの給与制度による人件費の増加、一般会計負担金の減額などのため、人件費の伸びに対して入院収益の伸びが追いついていない。
- ・ 救急医療の充実のため、救急専門医の確保を目指しているが、医師の確保が難しく常駐させることができていないなど、医師の確保に課題がある。
- ・ 看護師の確保に関しても、さまざまな取組みを行い採用者数を増やしているが、退職者が多く、さらに育児休業者や育児短時間勤務者も多く、実質的に業務を行える看護職員の確保に苦慮している。

### 2 今後の方針

#### ■地域において今後担うべき役割・持つべき病床機能

湘南東部構想区域では、在宅医療の連携拠点の設置や多職種連携に向けた研修などに取組み、在宅医療・介護の提供体制の整備を推進することとしている。当院では、地域医療支援病院として紹介率・逆紹介率の数値が年々上昇しており、引き続きこの傾向を維持できるよう取り組んでいる。また、多職種連携についての研修会参加者は年々増加している。顔の見える関係づくりと情報共有のためには継続して実施することが重要なので、引き続き取り組んでいる。

また、湘南東部構想区域の平成 37 年の必要病床数は、高度急性期病床は 539 床、急性期病床は 1,585 床、回復期病床 1,303 床、慢性期病床は 1,150 床となっており、回復期病床が不足すると推計している。また、不足する病床の確保については、各医療機関の自主的な取組み及び湘南東部地区保健医療福祉推進会議を通じた取組みを基本とすることとし、病床機能報告制度の結果や地域の医療提供体制に関する様々なデータ等の適切な情報提供を行い、病床機能の確保を図ることとしている。

以上から、具体的な病床機能転換の動きはこれから始まり、当分の間は現状の病床機能を継続しながら議論が進むものと考え。

当院は、以前から地域の基幹病院として急性期医療を担ってきた。湘南東部構想区域のうち主として茅ヶ崎市や寒川町の住民の利用が多く、救急医療充実のための取組みについて、住民からは、今の機能を改善・充実するための改修に関し肯定的な意見があり、この先も急性期病院としての役割を果たしていくことが期待されていると判断している。一方、会議で提供される様々なデータも参考に運営を続けていく。

さらに、救急患者の受け入れ体制を整えるため、救急医療部門の拡張を進め、救急診察室の増設、観察室の拡張、救急専門医師の配置、消防との連携による救急ワークステーションの設置を目指している。